

# 万葉集を読む — 卷二相聞部を読む —

クラス  
コード

63A18

曜日時限 土曜13:35~15:05

受講料 22,000円

定員 45名

単位 2単位

**概要** 万葉集は、歌を配列していくことによって、「固有の歴史」を描こうとしています。「固有の歴史」とは、天智天皇・天武天皇両方の血脈を引く、草壁皇子・文武天皇・聖武天皇こそが正統な天皇であり、その統治によって国家は繁栄するというものです。卷二相聞部の歌を読みながら、万葉集卷二の描く「固有の歴史」とはどのようなものかを考えていきます。

**講師** 福沢 健

獨協大学講師 専門/上代文学  
國學院大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得。学生時代から、上代文学、特に万葉集と古事記を中心に研究

**テキスト** プリントを配付します**内容** 5月11日~12月7日 (全10回)

- ① 5月11日 吉野川行く瀬の早みしましくも淀むことなくありこそせぬかも (2/119)
- ② 5月25日 たけばぬれたかねば長き妹が髪このころ見ぬに搔き入れつらむか (2/123)
- ③ 6月1日 遊士と我れは聞けるをやど貸さず我れを帰せりおその風流士 (2/126)
- ④ 6月29日 我が聞きし耳によく似る葦の末の足ひく我が背つとめ給ふべし (2/128)
- ⑤ 7月6日 古りにし姫にしてやかくばかり恋に沈まむたわらはのごと (2/129)
- ⑥ 9月28日 丹生の川瀬は渡らずてゆくゆくと恋痛し我が背いで通ひ来ね (2/130)
- ⑦ 10月12日 石見のや高角山の木の間より我が振る袖を妹見つらむか (2/132)
- ⑧ 10月26日 青駒が足搔きを早み雲居にぞ妹があたりを過ぎて来にける (2/136)
- ⑨ 11月9日 な思ひと君は言へども逢はむ時いつと知りてか我が恋ひずあらむ (2/140)
- ⑩ 12月7日 卷二相聞部の「歴史」